



▲記念碑



▲開所式でテープカット



▲道の駅全景

船村徹「ふるさとの原風景」に道の駅誕生

平成24年6月23日（土）、日光連山を望む風光明媚な場所に道の駅「尚仁沢の郷しおや」がオープンした。

施設は農産物直売所や農村レストランといった定番に加えて、地域交流館や地元出身の船村徹さんや木下龍太郎さん(故人)の記念碑などが当地の特徴を出している。

船村徹という稀有な作曲家を育んだ塩谷町船生の大自然。船村徹さんは日光連山を望むこの景色を「ふるさとの原風景」だと言う。ほど近いところに旧東武鉄道船生駅があって、暑い日も寒い日もポッポ汽車で今市中学校（現今市高校）へ通った懐かしい青春時代の思い出が、ここにはいっぱい詰まっているのだ。



「記念碑の歴史」

船村徹ふるさと会会長

谷畑方夫

道の駅「尚仁沢の郷しおや」のオープン、誠におめでとうございます。

この場所は旧船生中学校の跡地でしたが、周囲が農地であったことが幸いし、日光連山の眺望が次代への財産として受け継がれました。

当道の駅では、地元出身著名人にまつわる品々を展示するエントランスホールが設置されています。今後、様々な企画展などに利用されるものと期待していますが、この施設の外観もまた、名誉町民の船村徹さんにちなんだピアノの鍵盤がモチーフになっています。

また、施設南西側には記念碑が設置されていますので、これらの歴史などを簡単にお話しします。

私は船村さんと同級生ですが、私たちが還暦を迎えたとき、彼は大作曲家として押しも押されぬ活躍ぶりでした。そして、誰が言い出すでもなく、彼の功績をたたえ、母校である船生小学校の校庭に記念碑を建立しようと言う機運が起こってきました。題字は高野公男さんや私たち級友の情にもあい通じる「男の友情」に決まり、当人直筆による「男の友情の碑」が誕生しました。

平成17年には、塩谷町から名誉町民に推挙されたことを祝い、同級生やふるさと会が発起人となって広く町民から寄付を募り、「生誕の地」記念碑を建立しました。船村徹のふるさとに2個目の記念碑が誕生したのです。

そして、一方の木下龍太郎さん（故人）は「忘れな草をあなたに」をはじめ数々のヒットを世に送り出し、第37回日本作詞大賞を受けた作詞家です。

二人の実家は近くで、デビュー当時から木下さんは船村さんを兄と慕っていました。酒を酌み交わしながら船村さんの話を聞き、イメージを膨らまして木下さんが詞に綴る。そんな風景が似合う二人で、こうして数十曲の歌を世に送り出しました。

平成20年9月に木下さんは仕事先の越前で病に倒れ急逝されましたが、船村さんと町は協議し「木下龍太郎歌碑」を造りました。平成21年9月のことで、3つの記念碑は並んで設置されました。

そして、平成24年6月に開設された道の駅に移設され、多くの方にご覧いただくことになりました。今後は、両氏の代表曲が流れる音響設備の設置を町とともに考えていく予定です。

えひめ憲一さん、いよいよデビュー！

内弟子として13年間、船村先生と寝食を共に修行した えひめ憲一さん（本名：小倉憲一）が、7月18日、日本コロムビアからデビューしました。デビュー曲は「故郷がいちばん」（さくらちさと作詞、船村徹作曲）。

現在は、宇都宮市と出身地（愛媛県松山市）に連絡所を設けて活動しています。皆さんの応援を、お願いいたします。

☆えひめ憲一宇都宮連絡所

〒320-0054 宇都宮市東戸祭1-2-1

TEL 028-643-8821



△故木下龍太郎さんと船村さん



「歌供養」を再開

6月12日は船村徹さんの誕生日。毎年、「歌供養」と銘打った誕生日会が開催され、多くの関係者が集います。

昨年は東日本大震災の発生により船村さん自らが開催自粛を決断しましたが、今年、再開されました。

式典のあらましをお伝えすると……。

式典は2部制です。まず、世に出なかった歌や亡くなられた関係者などのために供養を行います。栃木県内高僧による読経の中、参加者全員が祭壇に手を合わせ、心を込めて献花です。特に今回は、盟友星野哲郎氏がお亡くなりになって初めての歌供養。船村さんは何かを語るように長く目をつぶりご冥福を祈っていました。



後半は、雰囲気ガラッと変わって、誕生のお祝いです。会場となったグランドプリンスホテル新高輪「飛天の間」には約400名の招待者が集い、食事とショーを楽しみました。

こちらはお祝いムードいっぱい、鳥羽一郎さんや島津亜矢さんなどがヒット曲を披露し、由紀さおりさんは「私にも歌を作ってください」と、軽妙なトークで場を盛り上げていました。

船村先生は最後にステージに上がり、取り囲んだ弟子たち全員がお祝いの歌を歌って、80歳の誕生日を祝いました。

「船村徹ふるさと会」では毎年、10名がご招待を受けていますので、順番で多くの会員が参加できるように考えています。



船村徹杯チャリティーゴルフ大会のお知らせ



第15回船村徹杯チャリティーゴルフ大会が9月22日(秋分の日)、随縁カントリークラブで開催されます。

費用はプレー代 8,000円(セルフプレー・昼食・利用税込) プラス参加費 3,500円(パーティー、賞品代)。ショートホールワンオンしない場合などに500円をチャリティー募金していただく(上限2,000円)ことがルールです。

協賛各社からも豪華賞品が提供され、上位入賞者は船村徹さんから直接、賞品が手渡されます。

船村さんは19番ホールから大会に参加。お弟子さんの歌の披露も予定されています。

お申し込みは…

随縁カントリークラブ鬼怒川森林コース(0287-47-1511)へ。

先着46組(180名)で締め切ります。

会員からの便り

「出逢い」

茨城県牛久市

皆川 憲古



▲杉山さんの作品

私が、ふるさと会に入会させて頂いたきっかけは、船村先生のゆかりの地を巡りたくて船生を訪ねた折、たまたま道を尋ねたのが谷畑会長さんだったことです。

当時、谷畑さんは船生公民館にお勤めでした。事情を話したところ、にこにこして私は船村徹ふるさと会の会長をしていますと自己紹介されました。こんな偶然があるのかとただただ驚きましたが、こうしたご縁で友人の杉山しつさんと入会させていただいたのです。

杉山さんは私と同じく大の船村ファンで、絵手紙作家です。招かれた個展で拝見した作品はすべてに思いのこもった一言が添えられ、感動したものです。

その中に、美空ひばりさんが最後の公演でみだれ髪を歌う赤いドレスの作品がありました。私はそれを見たとき、あまりにも臨場感にあふれているので、後に「コンサートをご覧になったのですか」と尋ねましたが、「本物は見たことがなくて雑誌の写真をもとに念を入れながら書いた」とのこと、驚きました。風になびくドレスの裾にまで、思いが届いていました。

先日の総会時に、杉山さんは船村先生にこの作品をお見せすることができました。船村先生からは「原版を譲って欲しい」とお認めをいただいたようで、感激していました。そして、私にまでお友達でよかった、皆川さんと出会えなかったらこんな機会はなかった、と言ってくれました。

実は杉山さんとの出逢いも、きれいに咲くことで有名なお寺の彼岸花をたまたま隣で見たことがきっかけでした。ほんの偶然でした。

だから、これからも常に思いやりの心を持てる自分を目指して、出逢いを大切にしていきたいと思っています。

平成23年度研修は「古閑裕而記念館見学」などを実施

平成23年度研修旅行を兼ねた事業「古閑裕而記念館を訪ねて」を平成23年10月29日(土)に実施しました。33名の参加でした。

本来ですと各地で開催される船村徹及び弟子たちのコンサート観覧などを行いますが、今回は東日本大震災に伴う船村先生の活動自粛を受けて内容を変更し、実施の運びとなりました。

この日は、福島県内の「古閑裕而記念館」「飯坂明治大正ガラス館」などの見学がメインでしたが、車中で船村先生に関する思い出を語り合ったり出演番組のビデオを鑑賞したりして会員の親睦を図り、楽しい時間を過ごしました。

＝あ一言えば交友録＝

「なかの博郎さん」と仲間たち

芸名「船村徹」の由来をご存じの方も多いと思いますが、船生村の心に徹するという決心がありました。

本名は福田 博郎(ふくだ ひろお)。ご当人いわく、生まれた時から疲れやすいのは名前のせいらしい。ただ、周囲には疲れた姿の船村さんを見た人はいないのですが。

少年時代から、「なかの博郎さん」で通っていた。「なか」は屋号である。俗に言うガキ大将で、戦争ごっこでは常に大将だったとか。ただ、お母さんは、やんちゃなわが子が心配であつたらしく、「でれすけ」と叱るのが常で、仕舞には良いことをしても「この、でれすけが」と笑いながら言ったそうです。(船村さん談)

「船村徹ふるさと会」は船村さんご自身が命名してくださいました。会員には同級生や古くからの知人が名を連ねており、会長谷畑方夫、副会長手塚利郎は同級生。その他にもデビュー当時から熱烈に応援する同級生や知人が多い。

また、会員の斎藤 喆(さとし)さんは斎藤さんが3年先輩の間柄だが、少年のころから心を通わす2人だった。斎藤さんは、ずっと船村先生からの手紙や記念の品などを大切に保管している。



(写真等提供 斎藤 喆さん)

